



## 2022年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年1月31日

上場会社名 株式会社 三ツ星  
コード番号 5820 URL <http://www.kk-mitsuboshi.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 競 良一

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 小川 直樹

TEL 06-6261-8882

四半期報告書提出予定日 2022年2月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2022年3月期第3四半期の連結業績(2021年4月1日～2021年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	6,916	24.0	215	27.1	257	5.5	260	52.9
2021年3月期第3四半期	5,576	14.4	169	5.8	243	36.4	170	18.6

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 261百万円 (7.4%) 2021年3月期第3四半期 243百万円 (28.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	227.19	
2021年3月期第3四半期	148.78	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第3四半期	10,741	6,165	57.4
2021年3月期	9,979	5,959	59.7

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 6,165百万円 2021年3月期 5,959百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期		0.00		50.00	50.00
2022年3月期		0.00			
2022年3月期(予想)				50.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,700	13.9	280	41.9	280	0.5	250	32.7	218.22

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年3月期3Q	1,266,655 株	2021年3月期	1,266,655 株
期末自己株式数	2022年3月期3Q	121,006 株	2021年3月期	122,914 株
期中平均株式数(四半期累計)	2022年3月期3Q	1,144,902 株	2021年3月期3Q	1,143,074 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書 .....	7
第3四半期連結累計期間 .....	7
四半期連結包括利益計算書 .....	8
第3四半期連結累計期間 .....	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(セグメント情報等) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の拡大が続くなかで、ワクチン接種率の上昇により一時的に国内感染者が減少しましたが、新たな感染力が強い変異株の出現により、再び社会経済活動の正常化が遅れ、先行きは不透明な状況となっております。

このようななか、当社はESG（環境・社会・統治）を中核にすえた経営方針のもと「新分野開拓」「新製品創出」「新顧客増強」「新グローバル戦略推進」の4S運動に取り組んでおります。自然災害の頻発と防災意識の高まり、脱炭素化社会への流れなどめまぐるしく変化する環境に適応し、それに伴うニーズに即応する技術開発を通じて、環境そのものの改善に貢献することを第一に活動しております。

当社グループの事業に関係する市場は以下のように推移しました。公共投資・設備関連は持ち直しつつあるなかで、当社は防災・復旧工事への取り組みや新製品開発を中心に注力しました。住宅建設関連市場は新設住宅着工戸数が前年比増と回復基調にあるものの厳しい状況が続いております。また、自動車関連分野では、半導体不足の影響に伴う生産調整や原材料価格の上昇影響がありますが、新規取引先からの受注が増加したことにより、国内子会社は大幅な増収増益となりました。

また、当期は基幹システムを5月より刷新し、生産性向上や業務の効率化を進めております。

その結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は6,916百万円（前年同期比24.0%増）、営業利益は215百万円（前年同期比27.1%増）、経常利益は257百万円（前年同期比5.5%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は260百万円（前年同期比52.9%増）となりました。

また、国土交通省が運営する民間企業等により開発された新技術に係る情報を共有及び提供するためのデータベースである新技術情報提供システム（NETIS）に当社の「水中機器用フロートケーブル」が2022年1月28日に登録となりました。

セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

#### [電線]

電線事業の主要な市場である建設・電販は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う国内外経済のさらなる下振れリスクなどもあり、先行きは不透明な状況で推移しました。販売量に関しては、ゴム電線（前年同期比4.1%減）、プラスチック電線（前年同期比4.0%増）の結果となり前年比較では横ばいで推移しました。

ただし、国内銅価格は依然1,111千円/トン（期中平均）と高値で推移したため、ゴム電線（前年同期比17.8%増）、プラスチック電線（前年同期比31.1%増）の売上高は4,789百万円（前年同期比30.1%増）となりました。

また、海外子会社でのゴム電線の生産が順調に推移し現地販売でのB to Bにも大きく寄与したことにより売上が増加しました。

セグメント利益につきましては、高付加価値製品の販売強化、継続的な経費削減等に取り組みましたが、原材料高騰による価格転嫁が遅れた事で123百万円（前年同期比22.4%減）と前年同期より減少する結果となりました。新製品の開発においては、2020年に『コンポジットハイウェイアワード2020』（主催：コンポジットハイウェイコンソーシアム、後援：経済産業省中部経済産業局）でグランプリを獲得した技術を実用化し、優れた耐張力・耐屈曲性を有する「マルチケーブル」を開発しました。さらに、自然災害に備えたケーブルとして「緊急災害用ケーブル（ED-CV 耐張力・水密型ケーブル）」の販売も開始しました。

またこのたび、PVC（塩ビ）素材の優れた特徴を活かして、生活の利便性向上・環境配慮・リサイクル・安全・防災などの社会のニーズに応える商品を公募するコンテスト『PVC Award 2021』（主催：塩ビ工業・環境協会など、後援：経済産業省など）で、当社の「水中機器用フロートケーブル」が準大賞を受賞しました。

「水中機器用フロートケーブル」は水中作業に使用する機器用のケーブルに、発泡塩ビを被覆することで、水に浮くケーブルとして2019年に販売を開始しました。軟質PVC（塩ビ）発泡体の耐久性や弾力性などの特徴が活かされたこの製品は、水中工事での作業性を大幅に向上させただけでなく、ケーブル自体の破損も防ぐ機能も持っております。今後も、引き続き販路拡大に努めてまいります。

新組織面では海洋・河川に特化した分野への進出と技術力向上に力を入れるべく技術開発センターに「アクアラボ」を新設しました。また海洋の科学技術に関する国際的コンベンション「Techno-Ocean 2021」への出展などを通して海洋分野における産学官のネットワークの構築に貢献しております。

さらに新製品創出に向けた産学連携も強化しており、2018年から始めた複数の大学と共同研究も継続して行っております。

今後も技術・営業の両部門が連携し製品開発・新分野開拓を行い、社会に貢献できる物作りに取り組んでまいります。

## 〔ポリマテック〕

ポリマテック事業では、前期に業績を牽引していた下水工事関連部材の更正管とオフィス関連部材の受注で若干の回復がありましたが、今期からの落ち込みが大きく、全体の売上高は1,395百万円(前年同期比3.4%減)となりました。

セグメント利益につきましては、生産性の改善や材料ロスの低減等に取り組みましたが、売上高(生産量)の減少が効率生産に大きく影響したことで、原材料値上げに伴う製品の価格改定が遅れた事が重なりましたが、一方でチューブの海外売上が新型コロナウイルス感染症拡大前の水準に戻ったことにより12百万円(前年同期比41.7%増)となりました。

新製品の開発においては、機能が大幅に強化されたエンジニアリング・プラスチック、環境に配慮したバイオプラスチックや廃プラスチックの押出技術を確立し商品開発を進めてまいります。また、2021年10月より抗ウイルス手摺りカバーの販売を開始し同時に横展開の商品開発を進めてまいります。

原材料を取り巻く環境は依然として供給面と価格面とも厳しい状況が続くと予測されますが、第4四半期半ばより実施予定の主要材料の値上げに伴う製品価格の改定を今期中に実施すると共に、営業部と技術課の連携を強化して新たな案件獲得に向けて顧客への訪問件数を増やし活動してまいります。

また、海外市場においては国際事業部と連携し、フィリピン、マレーシア、インドネシア、タイに絞り異形押出製品のWEB面談での需要調査を引き続き進めてまいります。

第4四半期半ばからの販売面の見通しは、遅れていた新規得意先からの内装建材部材の量産を2022年2月より開始する予定です。また、既存顧客の拡販案件の量産も開始します。

## 〔電熱線〕

電熱線事業では、自動車に關係する産業機器、抵抗器等の部品向けを中心に需要が拡大し、特に産業用ロボット向け抵抗器需要が好調に推移しました。自動車のEV化の進展やカーボンニュートラルを背景に、電気制御に必要な抵抗器の需要は今後も拡大が続くものと思われます。一方、需要回復に加え、各社のBCP対策や、在庫水準の見直しなどを背景に、様々な材料の調達環境が逼迫し、納期の長期化が常態化しつつあります。当事業ではスピード感のある営業対応や生産性向上など供給体制の強化を図り、納期の短縮化に取り組んでまいりました。また、数年前から取り組んできた自動車関連、産業機器、抵抗器業界への「新分野開拓」、「新顧客増強」が成果として現れてきました。

その結果、売上高は731百万円(前年同期比62.6%増)となり、セグメント利益につきましては79百万円(前年同期セグメント利益1百万円)となりました。

当事業におきましても原材料の調達難、価格上昇の懸念がありますが、材料の調達先を多様化し、調達の安定化を図ってまいります。また、自動車、産業機器など次世代技術へのシフトが期待される分野や、カーボンニュートラルを背景とした新たな需要の開拓にも取り組んでまいります。品質、信頼性の向上を最重要課題とし、生産性改善と原価低減に取り組み、業績向上に努めてまいります。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は7,156百万円となり、前連結会計年度末と比べ842百万円増加しました。これは主に受取手形及び売掛金が457百万円、商品及び製品が252百万円、原材料及び貯蔵品が197百万円増加したこと等によるものであります。固定資産は3,585百万円となり、前連結会計年度末に比べ80百万円減少しました。これは主に有形固定資産その他が38百万円、投資有価証券が22百万円、無形固定資産が21百万円減少したこと等によるものであります。

この結果、総資産は10,741百万円となり、前連結会計年度末に比べ761百万円増加しました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は3,069百万円となり、前連結会計年度末に比べ687百万円増加しました。これは主に電子記録債務が437百万円、短期借入金が153百万円、支払手形及び買掛金が133百万円増加しましたが、賞与引当金が28百万円減少したこと等によるものであります。固定負債は1,506百万円となり、前連結会計年度末に比べ131百万円減少しました。これは主に長期借入金が149百万円減少したこと等によるものであります。

この結果、負債合計は、4,575百万円となり前連結会計年度末に比べ555百万円増加しました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は6,165百万円となり、前連結会計年度末に比べ206百万円増加しました。これは主に利益剰余金が202百万円増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は57.4%（前連結会計年度末は59.7%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年3月期の連結業績予想につきましては、2021年5月13日公表の決算短信に記載しております連結業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,752,462	1,424,749
受取手形及び売掛金	2,393,861	2,851,601
電子記録債権	513,585	727,764
商品及び製品	999,259	1,251,263
仕掛品	267,665	273,424
原材料及び貯蔵品	298,841	496,345
その他	87,895	131,298
流動資産合計	6,313,570	7,156,447
固定資産		
有形固定資産		
土地	1,519,568	1,520,459
その他(純額)	1,334,670	1,296,016
有形固定資産合計	2,854,239	2,816,476
無形固定資産		
	186,878	165,401
投資その他の資産		
投資有価証券	567,717	545,156
その他	57,583	58,444
貸倒引当金	△200	△200
投資その他の資産合計	625,101	603,400
固定資産合計	3,666,218	3,585,278
資産合計	9,979,789	10,741,726
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	538,211	671,646
電子記録債務	1,053,574	1,491,171
短期借入金	31,458	185,251
1年内返済予定の長期借入金	325,383	327,663
リース債務	66,589	63,693
未払金	149,652	147,703
未払法人税等	41,955	52,026
賞与引当金	70,108	41,655
その他	105,298	88,896
流動負債合計	2,382,232	3,069,708
固定負債		
長期借入金	1,322,186	1,172,669
退職給付に係る負債	30,214	40,223
リース債務	215,857	174,183
その他	69,651	119,003
固定負債合計	1,637,909	1,506,078
負債合計	4,020,142	4,575,787

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,136,518	1,136,518
資本剰余金	1,133,657	1,133,843
利益剰余金	3,523,211	3,726,129
自己株式	△148,342	△146,070
株主資本合計	5,645,044	5,850,420
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	249,973	284,785
為替換算調整勘定	16,455	27,375
退職給付に係る調整累計額	48,173	3,357
その他の包括利益累計額合計	314,602	315,518
純資産合計	5,959,647	6,165,938
負債純資産合計	9,979,789	10,741,726



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
売上高	5,576,880	6,916,698
売上原価	4,370,791	5,588,913
売上総利益	1,206,089	1,327,784
販売費及び一般管理費	1,036,936	1,112,740
営業利益	169,152	215,044
営業外収益		
受取利息	26	25
受取配当金	13,449	13,895
受取家賃	4,860	4,320
仕入割引	3,088	3,892
助成金収入	63,149	17,572
その他	21,106	19,523
営業外収益合計	105,680	59,229
営業外費用		
支払利息	9,356	8,537
売上割引	11,901	—
訴訟関連費用	6,000	3,000
その他	3,597	5,376
営業外費用合計	30,855	16,914
経常利益	243,977	257,360
特別利益		
投資有価証券売却益	1,998	66,786
退職給付制度終了益	—	65,383
固定資産売却益	1,479	—
特別利益合計	3,478	132,169
特別損失		
固定資産除却損	1,746	2,373
投資有価証券売却損	—	6,840
事務所移転費用	—	3,369
特別損失合計	1,746	12,584
税金等調整前四半期純利益	245,708	376,946
法人税、住民税及び事業税	36,146	71,993
法人税等調整額	39,495	44,847
法人税等合計	75,641	116,840
四半期純利益	170,066	260,105
親会社株主に帰属する四半期純利益	170,066	260,105

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
四半期純利益	170,066	260,105
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	74,595	34,811
為替換算調整勘定	262	10,919
退職給付に係る調整額	△1,804	△44,815
その他の包括利益合計	73,053	915
四半期包括利益	243,120	261,021
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	243,120	261,021

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

これにより、従来は販売費及び一般管理費に計上しておりました販売諸掛費等の一部や、営業外費用に計上しておりました売上割引を、売上高から控除しております。

また、顧客への商品の提供における当社の役割が代理人に該当する取引については、顧客から受け取る対価の総額を収益として認識していましたが、顧客から受け取る額から商品の仕入れ先に支払う額を控除した純額で収益を認識する方法に変更しています。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は49,338千円減少し、営業利益は11,347千円減少しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2020年4月1日 至2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計
	電線	ポリマテック	電熱線	
売上高				
外部顧客への売上高	3,682,361	1,444,428	450,090	5,576,880
セグメント間の内部 売上高又は振替高	778	—	92	870
計	3,683,140	1,444,428	450,183	5,577,751
セグメント利益	158,596	8,838	1,717	169,152

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## II 当第3四半期連結累計期間(自2021年4月1日 至2021年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計
	電線	ポリマテック	電熱線	
売上高				
ゴム電線	2,083,036	—	—	2,083,036
プラスチック電線	2,333,195	—	—	2,333,195
押出成形品	—	1,339,542	—	1,339,542
機能樹脂品	—	54,220	—	54,220
電熱線	—	—	731,749	731,749
その他	373,151	1,802	—	374,953
顧客との契約から生じる収益	4,789,382	1,395,565	731,749	6,916,698
その他の収益	—	—	—	—
外部顧客への売上高	4,789,382	1,395,565	731,749	6,916,698
セグメント間の内部売上高又は振替高	983	—	93	1,076
計	4,790,366	1,395,565	731,843	6,917,775
セグメント利益	123,081	12,523	79,439	215,044

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## 3. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載の通り、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に変更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の「電線」の売上高が10,864千円、セグメント利益が9,645千円、「ポリマテック」の売上高が38,474千円、セグメント利益が1,701千円、それぞれ減少しております。